

西南小の風

だれかのために じぶんのために いっしょうけんめい

昭和の感覚

令和6年2月22日
第43号



人なつこい1年生。否応なく朝の活気がすごいことになります。

最近始まったドラマにはまりつつあります。

昭和と令和を行き来するあのドラマです。ストーリーはさておき、昭和の風俗・世相が目を引きまします。例えば、当時は現在に比べると圧倒的に喫煙者が多く、主人公の中学校教師が授業中の教室でタバコを吸うシーンは、私の小学校当時を思い出しました。授業中、教室前方窓際で担任の先生がタバコを吸っておられました。当時の私はそれに何の疑問も感じませんでした。今では考えられません。

さて、ドラマは別として、昭和当時は「不登校」がありませんでした。厳密に言えばごく少数でした。昭和四一年から平成二年まで、不登校(当時は登校拒否)の定義は「『学校ぎり』で五〇日以上欠席した児童生徒」となっており、一〇〇〇〜二〇〇〇人に一人程度の比率で推移していました。現在全校児童八七〇名の本校の規模で考えて一人いるかないかぐらいです。そして、平成三年以降は「五〇日以上」が、「三〇日以上」となり、平成一〇年からは「学校ぎり」という言葉が初めて「不登校」に変わります。この間(五八年間)「不登校」は、推移の傾向として減少したことはありません。今や小学校は六〇人に一人(中学校は一七人に一人)が不登校です。本校もその例に漏れません。社会的にも大きな問題となっています。不登校が増えた理由は諸説あります。特に平成二五年から令和四年の十年間での急増は、コロナ禍はもちろんスマホの普及や、当時の「脱ゆとり」の学習指導要領(旧)の完全実施などが要因と見られています。また、「主体的・対話的で深い学び」の現行学習指導要領によって、子供主体の授業に変わりつつあり、授業中の話し合いや教え合いが増えることによって、勉強の苦手な子はやり過ぎしにくくなったというのを要因として上げる人もいます。

令和三年の「不登校児童生徒の実態把握に関する調査」(文科省)によると、学校に行きづらいつつあると思っただけのトップ5は次のとおりです。

- ① 先生のこと (一九.七%)
 - ② 身体の不調 (二六.五%)
 - ③ 生活の乱れ (二五.七%)
 - ④ よくわからない (二五.五%)
 - ⑤ 友達のこと (二五.二%)
- ※調査は複数回答

①はしっかり受け止めなければなりません。それぞれが理由としてとても理解できます。そして、④にあるように今学校に登校できない、教室に入れない原因がわからない子どもが増えています。抱える困り感がわからないし、

どう支援して欲しいのかのニーズがわからないのです。皆目わからないから何も出来ないのではありません。聞き取りをして困り感の解消につなげたとしても、必要な支援を行ったとしても改善につながらないことがあまりにも多いのです。本人も意識できていない何かがあるのです。その「何か」を根気強く探っていくことが、保護者と我々職員のお仕事です。その「何か」の一つはこんなことかもしれない。先日読んだある本に、次のような記述がありました。

『「不登校という選択肢があること」「選択する子は日本中で着実に増えていること」「選択しても直ちにひどい目に遭うことはないこと」「将来が絶たれてしまうといったこともなさそうであること」などに気付いてしまうことです。これによって、不登校という選択肢が子供の心の中で準備されてしまうわけです。』(『教師と支援者のための 令和型不登校 対応クイックマニュアル』 神村栄一 著)

これは推測でしかないし、事実であっても「何か」の一つに過ぎませんが、昭和世代にはない選択肢なのです。

フレンドリー一年生

たくみさんは、新校舎誘導する方です。いつも正門付近におられます。実際に児童が「たくみさん！」と毎日呼びかけて、いろいろ話をしていくようです。いつもにこやかに対応していただいています。そんなたくみさんを、ぜひみんなに紹介して欲しいと一年生から左のような手紙をもらいました。本校児童の人なつこさがわかります。大人を笑顔にさせますね。

校長先生おはようございます。はなしをきいてください。わたしは、1ねん〇くみ〇〇〇です。けいびのたくみさんが、いつもがんばってくださっているの、あんしんしてすごせています。がんばってくれているたくみさんにインタビューをしました。よければみなさんにもうかいしてください。

(たくみさんへのおてがみ)
こんにちは。わたしは、たくみさんとなかよくなりたい1ねん〇くみの〇〇〇〇です。にしごうしみなみしょう学校のみんなのことを、あんしん、あんぜんにけいびして下さっているたくみさんに、しつもんがあります。こたえてもらえますか。いやなしつもんはしません。

- ・おなまえ(たくみ ひでお) ・うまれたつき(9月)
- ・なんさい(40代) ・小学生のときのブカツ(なかった)
- ・小学生のときすきだったこと(あそび)
- ・いまのとくいなことや、すきなこと(あそびやたび)
- ・このしごとをしていてうれしかったこと(みんなとこうりゆうできる)
- ・にしごうしみなみしょうがっこうのせいとに、つたえたことや、いいたいことはありますか。(スポーツやべんきょうをがんばってください。ますますがんばってください。)